

横芝光町

高谷川低地遺跡

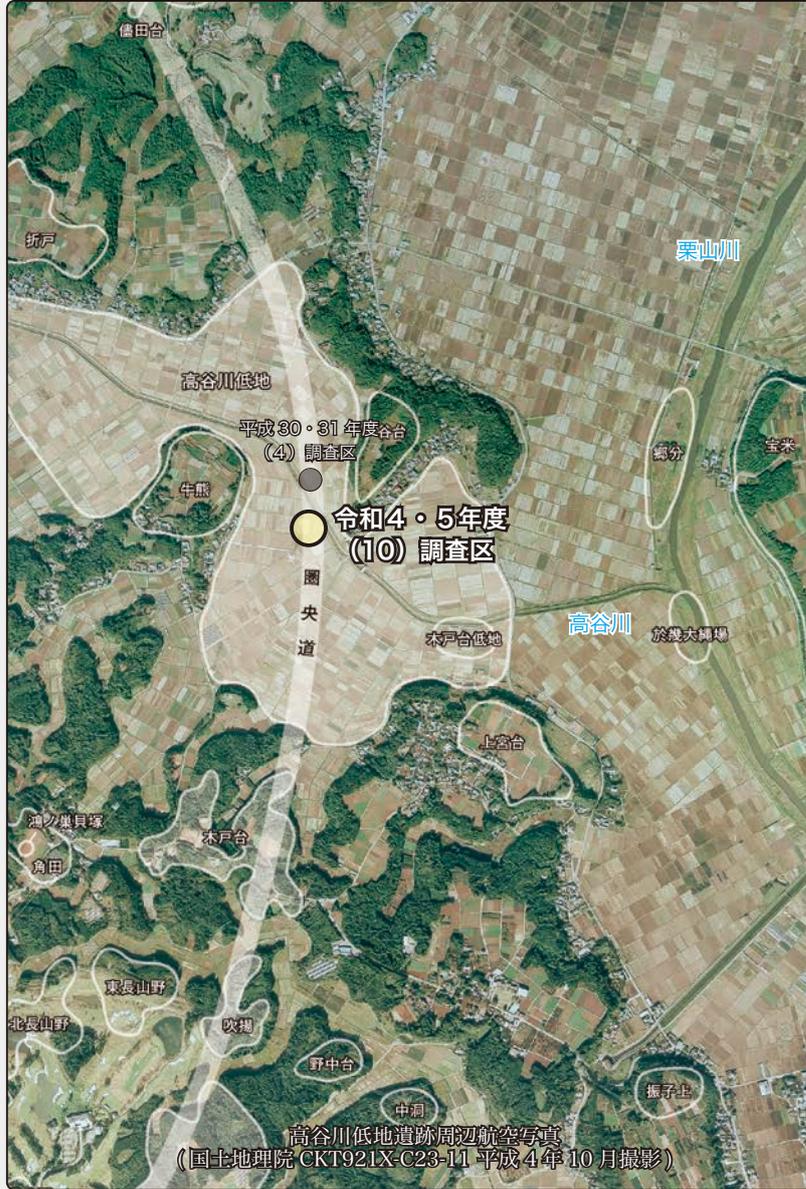
～密集して出土した縄文時代の丸木舟～



高谷川低地遺跡

たかやがわでいち

高谷川低地遺跡は、栗山川上流の高谷川右岸に位置する標高約4mの低地に形成された、横芝光町牛熊や芝山町殿部田などに所在する遺跡です。圏央道（大栄JCT～松尾横芝IC）の建設に伴い、令和4・5年度に（10）調査区を発掘調査した結果、2か所の丸木舟集中地点が検出され、全形の分かる丸木舟が合計15艘出土しました。特に北部のSX-001では、出土した11艘のうち、9艘が密集して出土しています。平成30・31年度に（4）調査区を調査した際に、丸木舟が1艘出土していますが、このように多数の丸木舟が集中して出土したのは、全国的にも珍しい例と言えます。（10）調査区からは、丸木舟のほか約3,500年前の縄文時代後期（加曽利B式）の土器や、漆塗りされた櫂や、樹皮を巻きつけた弓などの木製品、魚を突く漁労具であるヤスといった骨角器なども出土しており、貴重な成果となりました。



縄文時代の櫂

遺跡からは、赤漆が塗られた木製の櫂が4点出土しました。縄文時代の櫂は、現在のように髪をとかず横櫂ではなく、髪に挿す装飾性の強い縦櫂と考えられています。4点とも櫂歯の部分が根元から欠損していますが、歯材を糸などで結束し、漆素材で形態を整えた後に、表面に赤漆を塗った結歯式縦櫂と呼ばれるものです。漆で整えられた基部の形状は、①～③が横長で、②には横長の透かしや、菱形の意匠が見られます。④は縦形で、比較的シンプルな造形です。

①



②



③

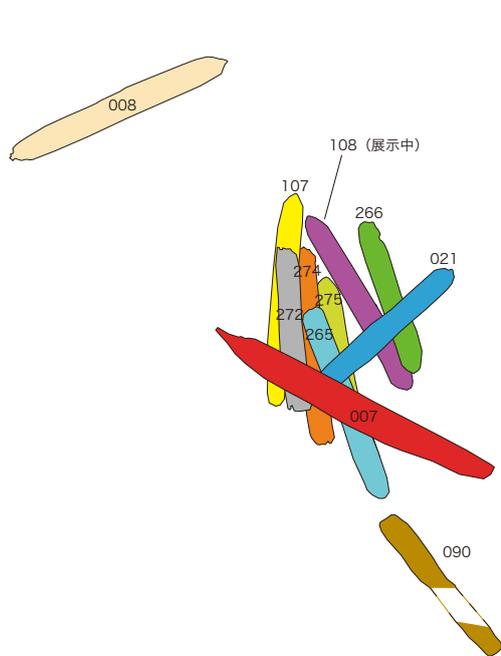


④



S X-001 北部丸木舟集中地点

北部丸木舟集中地点では、11 艘の丸木舟が出土しています。平面的には、北西側に位置する 008 から南東側に位置する 090 まで、北西方向に 15 m ほどの帯状の範囲に分布しています。中央付近の 9 艘は、標高 1.5 m ~ 2.0 m の深さから密集して出土しています。007 が最も高い位置から出土し、北西側の 008 はそれよりもやや低い位置となります。007 の下の 9 艘の丸木舟群は、007 との間に若干の間層を挟んで、ほぼ標高差なく、一部が並んで重なるように出土しました。また、9 艘は 008 よりも低い位置で出土しています。なぜこのような状態で出土したのか、今後、様々な分析を行いながら、明らかにしていきたいと思ひます。



S X-001 丸木舟分布図 (S = 1/150)



S X-001 丸木舟 108 出土状況



S X-001 丸木舟 107・265・272・274・275 出土状況



S X-001 丸木舟 007・021 出土状況



S X-001 丸木舟 021・107・108 出土状況

縄文時代の丸木舟

縄文時代の丸木舟は、丸太を裁ち割り、中をくり抜いて作られており、右の写真の S X-001 の丸木舟 107 は、先端部に木の年輪が残っている様子が観察できます。丸木舟は、これまでに全国で約 160 艘確認されていますが、最も出土数が多いのは、約 80 艘で千葉県となっています。その多くが高谷川や借当川が合流する栗山川の水系で確認されており、日本で最も縄文時代の丸木舟が出土している地域と言えます。圏央道建設に伴う当財団の調査によって、新たに 16 艘加わることとなりました。



S X-001 丸木舟 107 出土状況

丸木舟と縄文土器

丸木舟の周辺から、多くの縄文土器が出土しています。右の写真に示したSX-001の丸木舟008と隣合って出土した土器は、破片を集めて接合したところ、ほぼ完全な状態に復元することができました。丸木舟に伴って多数の土器が出土することは珍しく、こうした出土状況は、丸木舟がいつごろ使用されたかを考える上で、重要な手がかりとなります。



S X-001 丸木舟 008 遺物出土状況



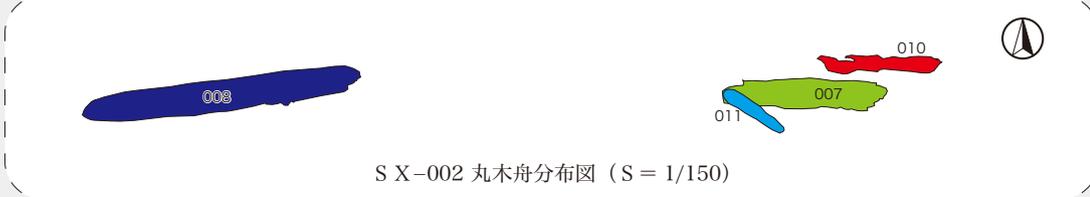
遺跡から出土した縄文土器

S X-002 南部丸木舟集中地点

南部丸木舟集中地点では、4艘の丸木舟が出土しています。北部と比べて標高が50cmほど高く、また東西方向に並んだ状態で出土しました。



S X-002 丸木舟 008 調査風景



S X-002 丸木舟分布図 (S = 1/150)



S X-002 丸木舟 008 出土状況



S X-002 丸木舟出土状況

丸木舟が出土した対岸の(4)調査区

平成30・31年度に発掘調査を実施した(4)調査区では、丸木舟1艘のほか、赤色の顔料が塗布された注口土器や、舟を漕ぐ際に使用したと思われる木製の櫂などが出土しました。(4)調査区の丸木舟は、出土した状況から約2,500年前の縄文時代晩期の安行3 a～3 b式の時期に属すると考えられ、今回調査を行った(10)調査区の丸木舟とは時期が異なります。



(4) 地点 丸木舟出土状況



(4) 地点出土 縄文土器



(4) 地点出土 木製品(櫂)

今回の見学会では、高谷川低地遺跡(10)調査区から出土した丸木舟や、縄文土器、木製品の一部をご覧いただきました。今後、出土した資料の整理や分析を行っていくことで、遺跡の様相を明らかにしてまいります。発掘調査報告書が刊行された際は、図書館などでお手にとっていただければ幸いです。私たち公益財団法人千葉県教育振興財団は、今後も遺跡見学会や出土遺物の展示会をはじめ、様々な方法で埋蔵文化財の魅力について伝えていきます。今年では設立50周年を迎え、様々なイベントを予定しておりますので、ぜひご注目ください。